

# 高校日本史プリント（過去問類似）

## 近世 No.1

名前

得点

/10

**問1** 前野良沢や杉田玄白に学び『蘭学階梯』を著した人物が、江戸に開設し、多くの門人を育てて蘭学の普及に貢献した私塾（蘭学塾）の名称を何というか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 芝蘭堂                      2. 鳴滝塾                      3. 咸宜園                      4. 洗心洞

**問2** 19世紀初頭の文化年間に、ナポレオン戦争の影響下にあったヨーロッパの情勢を背景として、イギリスの軍艦がオランダ船を拿捕する目的で長崎に不法侵入し、薪水を要求した事件は何か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. モリソン号事件              2. サン・フェリペ号事件      3. フェートン号事件          4. ポサドニック号事件

**問3** 16世紀末、ヨーロッパから金属活字を用いた印刷技術が日本に伝わった。これにより、宣教師らによってローマ字を用いた宗教書や日本語辞書、さらには『平家物語』などの日本の古典が印刷・出版された。これらの書籍を何と呼ぶか。（2026年 全国公立入試 類似）

1. キリシタン版                  2. 駿河版                      3. 嵯峨本                      4. 伏見版

**問4** 江戸幕府の第3代将軍であり、祖父や父と異なり生まれながらの将軍として強い権力を背景に、老中・若年寄・大目付などの職制を整えて幕府の支配体制を確立した人物は誰か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 徳川綱吉                      2. 徳川家光                      3. 徳川秀忠                      4. 徳川吉宗

**問5** 江戸時代後期、農学者の大蔵永常は、諸藩が領内の特産物の生産を奨励し、それを専売にすることで他国（他藩）から利益を得るべきであると説いた。この思想や具体的な国産化の技術・方法が記され、各地の藩政改革にも影響を与えた彼の代表的な農書は何か。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 広益国産考                      2. 農具便利論                      3. 地方凡例録                      4. 救荒二物考

**問6** 室町時代後期から近世にかけて、京都の市街地と郊外の景観、年中行事、そして様々な階層の庶民の日常生活や労働の様子を詳細に描き出した屏風絵がある。当時の社会や生活実態を視覚的に知るための貴重な史料となっている、この風俗画の名称として最も適当なものを答えよ。（2026年 全国公立入試 類似）

1. 洛中洛外図屏風                  2. 豊国祭図屏風                  3. 祇園祭礼図屏風                  4. 遊楽図屏風

**問7** 江戸時代の農村などで広く組織された共同組織のうち、十干十二支の特定の日に、体内の虫が抜け出して天帝に個人の罪を告げるのを防ぐため、人々が集まって夜を徹して語り合い、健康や長寿を祈った信仰に基づく組織を何というか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 大山講                      2. 富士講                      3. 庚申講                      4. 伊勢講

**問8** 日米修好通商条約に基づき1859年に開港され、幕末の貿易において国産生糸の最大の輸出拠点として急速に発展した港はどこか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 長崎港                      2. 新潟港                      3. 兵庫港                      4. 横浜港

**問9** 19世紀初頭の関東地方では、無宿人や博徒の横行による治安悪化が深刻化していた。これに対処するため、江戸幕府は勘定奉行の配下に新たな役職を設け、国境を越えた広域的な取締りを行わせた。のちにこの役職の活動を補完するため、領主の支配の遠いを超えて近隣の村々を結合させた「寄場組合」が結成されることとなったが、このとき幕府が設置した治安維持のための役職は何か。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 人足寄場差図役                  2. 火付盗賊改役                  3. 関東取締出役                  4. 人足寄場取締役

**問10** 江戸時代、房総半島の九十九里浜において地引網を用いて大量に捕獲され、乾燥などの加工を施されたのち、畿内をはじめとする先進的な農業地域へ綿作などの金肥（肥料）として出荷された魚類は何か。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 鰯                      2. 鯨                      3. 鯨                      4. 鯉

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 芝蘭堂	大槻玄沢は前野良沢・杉田玄白らに蘭学を学び、蘭学の入門書である『蘭学階梯』を著した。彼は江戸に私塾である芝蘭堂を開き、多くの門下生を育成して蘭学の発展に大きく貢献した。大坂で緒方洪庵が開いた適塾など、他の私塾との区別が重要である。
問2	答え 3 フェートン号事件	1808年（文化5年）、イギリス軍艦フェートン号が、当時ナポレオン支配下にあったオランダの商船を捕らえる目的で、オランダ国旗を偽装して長崎港に侵入した。この事件は、長崎奉行の松平康英が責任を取って自害するなど、幕府の対外警備体制の不備を露呈させ、のちの異国船打払令へとつながる契機となった。
問3	答え 1 キリシタン版	桃山文化の時期、南蛮貿易やキリスト教の布教に伴ってヨーロッパの文化が流入した。イエズス会宣教師らによって金属活字を用いた活版印刷機がもたらされ、ローマ字を用いた宗教書や日本語辞書、日本の古典などの書籍が出版された。これらは布教や宣教師の日本語学習に用いられた。
問4	答え 2 徳川家光	2代将軍秀忠の死後に実権を握った第3代将軍は、老中・若年寄・三奉行などの職制を整備し、將軍直属の官僚機構を確立した。これにより、幕府の支配体制が強固なものとなった。
問5	答え 1 広益国産考	大蔵永常は江戸時代後期の代表的な農学者であり、日本各地を旅して農業技術や特産物の栽培法を調査した。彼は、自国内で消費するものを自給して他国への金銀の流出を防ぎ、さらに特産物を他国へ売り出して利益を得るとする「国産」の思想を提唱した。この思想が体系的にまとめられたのが『広益国産考』であり、財政再建を目指して特産物の生産奨励や専売制を導入しようとする諸藩の政策に大きな影響を与えた。
問6	答え 1 洛中洛外図屏風	室町時代後期から江戸時代にかけて、京都（洛中）と郊外（洛外）の景観や、そこに暮らす人々の生活、年中行事などを描いた風俗画を洛中洛外図屏風と呼ぶ。織田信長が上杉謙信に贈ったとされる狩野永徳筆の「上杉本」などが有名であり、文字資料だけでは捉えにくい当時の庶民の具体的な生活実態や社会の様子を視覚的に理解するための貴重な歴史資料となっている。
問7	答え 3 庚申講	江戸時代の農村では、村落内の結びつきを強めるため、様々な共同組織がつくられた。その中には、特定の神仏や信仰を共にする「庚申講」や「伊勢講」などの信仰組織があり、農民たちの社交や娯楽の場としても機能した。これは、十干十二支の庚申（こうしん）の日に、体内の三尸（さんし）の虫が天帝に悪事を報告するのを防ぐため、夜を徹して眠らずに過ごす信仰から生まれた共同組織である。
問8	答え 4 横浜港	1858年に結ばれた日米修好通商条約に基づき、翌1859年に神奈川の対岸に位置する地が開港された。これが横浜港であり、幕末の貿易において最大のシェアを占め、特にイギリス向けに国産の生糸が大量に輸出された。
問9	答え 3 関東取締出役	江戸時代後期の関東地方では、細分化された領地（私領・旗本領・幕領など）が複雑に入り組んでおり、無宿人や博徒が領境を越えて逃亡するため、個別の領主による取締りが困難であった。そこで幕府は1805年、国境を越えて広域的な治安維持を行う関東取締出役を設置した。さらに1827年には、この活動を地域社会側から補完・支援させるため、領主の枠を超えて近隣の村々を連合させた寄場組合（改革組合村）を組織させた。
問10	答え 1 鰯	江戸時代、農業の発展に伴って購入肥料である金肥の需要が高まった。特に房総半島の九十九里浜では地引網漁が発達し、大量に捕獲された鰯が干鰯やメ粕に加工され、畿内の綿作地帯などに肥料として流通した。